

平成 29 年度愛媛県社会教育実態調査(指定テーマ調査)

「放課後や休日等の子どもの過ごし方」 調 査 結 果

1 はじめに

(1) 調査の概要と協力に対するお礼

愛媛県社会教育委員会議では、平成 26 年度から年度毎にテーマ※1-1 を選定しながら社会教育実態調査を実施している。今年度は「放課後や休日等の子どもの過ごし方」をテーマに調査を実施した。

調査方法は、これまでの方法に準じて、東中南予※1-2 や地域特性※1-3 の分散を確保しながら、学校単位で協力依頼※1-4 を行い、在籍する小学 5 年生(以下「小 5」という)と中学 2 年生(以下「中 2」という)計 1,737 名の調査協力を得た。

調査に当たっては、個人情報の取り扱いについても留意し、特に調査対象校や調査対象者の特定ができないよう万全を期した。

今回の調査概要や実施要項、各調査票等は、添付の資料を参照されたい。

調査に協力をいただいた小中学校や児童生徒の皆様をはじめ、市町教育委員会、各教育事務所等関係者の皆様には、特に感謝申し上げますとともに、今回の調査が子どもたちの健全育成の一助になれば幸甚である。

※ 1-1 毎年度のテーマ

平成 26 年度「公民館を核にした地域における社会教育活動の実態と住民の意識について」

平成 27 年度「生涯学習推進計画策定に係る県民アンケート」

平成 28 年度「子どもの貧困と社会教育～社会関係資本(人間関係)の視点を中心にして～」

※ 1-2 東中南予：本県の東中南予のこと。東部の東予、中央部の中予、南西部の南予の 3 地域で、それぞれ市町は次のとおり。

東予：今治市、新居浜市、西条市、四国中央市、上島町

中予：松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町

南予：宇和島市、八幡浜市、大洲市、西予市、内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町

※ 1-3 地域特性(都市部、住宅部、小集落)：小中学校の立地場所の人口の密集状況等から 3 区分し、それぞれ密集状況の高いところから「都市部」、「住宅部」、「小集落」の 3 区分に分けているもの。当調査では対象学校数が限られることに着目し、東中南予の各教育事務所に、各地域特性を持った場所に立地している学校の中から協力校の推薦を受けているもの。

なお、今回の調査における「地域」については、「皆さんの住んでいるところの町内会や自治会、地区、校区などします。」(調査票表紙に記載)と定義した。

※ 1-4 表 1-(1) 調査協力校数及び調査協力児童生徒数

	東中南予 地域特性	調査協力校(校)				調査協力児童生徒数(人)(回答数)			
		東予	中予	南予	計	東予	中予	南予	計
小 5	都市部	2	2	1	5	126	139	101	366
	住宅部	2	2	2	6	110	136	110	356
	小集落	4	4	7	15	45	48	75	168
	計	8	8	10	26	281	323	286	890
中 2	都市部	2	1	1	4	108	143	88	339
	住宅部	2	2	2	6	108	140	103	351
	小集落	2	3	3	8	49	38	70	157
	計	6	6	6	18	265	321	261	847
全 体	都市部	4	3	2	9	234	282	189	705
	住宅部	4	4	4	12	218	276	213	707
	小集落	6	7	10	23	94	86	145	325
	計	14	14	16	44	546	644	547	1,737

(2) 調査の信頼水準について

今回の調査対象者数は、小5：890名、中2：847名、計1,737名、それぞれ無限母集団での世論調査の信頼水準95%に必要な人数(384名)を上回るとともに、東中南予や地域特性バランスを考慮した調査協力校の選定により、全体及び学年別については信頼水準を確保した。

ただし、東中南予間の比較や、地域特性別での比較については、それぞれ調査対象者が3分割されることや調査協力校が限られることから、信頼水準は確保できていない。そのため、東中南予間の比較や、地域特性別での比較から見られる特徴等については、参考として掲載した。

なお、次回以降の調査に関しては、調査協力校の負担を押さえながら調査規模についての検討を行うこととしたい。

2 主な集計結果

(集計結果の概要)

各問の回答結果は、「集計結果1」のとおり、グラフにまとめた。またそれぞれのデータについては、「データ編・集計結果1」にまとめた。

集計に当たっては、小5と中2との放課後や休日の過ごし方にかなりの相違が見られたことから、極力、「全体」、「小5」、「中2」別に集計するとともに、それぞれ「東中南予」別及び「地域特性」別に集計した。

この項では、その集計結果から認められた主な特徴を(1)～(14)として記載する。

(1) 放課後や休日等の過ごし方のイメージ

集計結果1の主な集計結果の最多の回答ないし上位の回答等に基づき、よくある放課後や休日等の過ごし方を、小5と中2でそれぞれまとめると、次のイメージとなる。

小5の場合

ア 本県の小5の子どもたち(以下この項では「子」という)は、午前6時から6時30分までの間に起床する子が約6割と最も多く、午前6時30分までに7割強が起床している。朝ごはんは8割以上が毎日食べ、9割以上が週5日以上食べている。約9割が徒歩で通学し、10分くらいで約4割が学校に着き、約3割は20分くらいかかっている。夜は、午後9時～10時にかけて約6割が就寝しており9割以上が午後11時までに就寝している。(集計結果1の図3-1～図7-1)

イ 6つの自己肯定感のうち次の5つ(各項目とも「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が約8～9割)は当てはまっている。①毎日が楽しく、②自分のことを大切に思う人がいると思っており、③将来にも希望をもっている。④地域の人たちとの活動が好きで、⑤まわりの人の役に立ちたいと考えている。次の6つ目はやや当てはまっている(「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせても7割弱)。⑥地域の人たちの活動には進んで参加している。(同図8-1-1～図8-6-1)

ウ 放課後には、①習い事の教室に約6割の子が行ったり、約3割が②友達の家へ行ったり、③ショッピングセンターやスーパー、コンビニ等に立ち寄ったり、④学習塾に行ったりしている。(同図10-1)

エ また、家では、①勉強を約9割の子がしたり、②テレビやDVDを約7割が見たり、③家族と話を約6割がしたりして過ごしている。(同図9-1)

オ 休日も放課後と同様に約7割の子が①家で勉強したり、②テレビやDVDを見たり、③家族と話を約6割がしたりしている。また、①ショッピングセンターやスーパー、コンビニ等に約6割が、約5割が②友達の家や、③習い事の教室によく出かけている。(同図12-1、図13-1)

カ 放課後や休日によく話をするのは、①家族や親戚が約9割、②友達が約7割、

- ③学習塾や習い事、スポーツ活動の先生が約4割の順となっている。(同図15-1)
- キ 放課後や休日に、友達とよく遊ぶかときどき遊んでいる子が約7割いて、遊ぶ時には、2～3人の友達と遊ぶことがよくある子は約7割で、おおぜいでときどき遊ぶ子は約4割、上級生や下級生とよく遊ぶかときどき遊んでいる子は約5割いる。(同図16-1、図17-1-1～図17-3-1)
- ク 放課後や休日に家の手伝いはときどきする子が約5割と最も多く、よくする子をあわせると約8割いる。そのうち、自ら進んで行っていたり任されていたりする手伝いがあるのは約8割である。主な手伝いとしては、①食事の準備や片付けが約6割、②家の中の掃除が約4割、③ペットの世話が約3割の順となっている。(同図18-1、19-2-1)
- ケ 放課後と休日の勉強時間は、ともに1時間くらいする子が最も多く、1時間以上勉強する子は放課後で約6割、休日で約5割である。この1か月で読んだ本の平均は1人当たり8.9冊で、0冊が1割、5冊までが5割を占めている。(同図20-1-1、図21-1、図21-1-1)
- コ 放課後や休日に、学習塾に通っている子は約3割。習い事には約7割の子が通っており、内容としては、①球技が約4割、約3割が②音楽、③習字、④水泳。(同図22-1、図25-1、図27-1)
- サ 地域の人の活動で見たり聞いたりしているものとしては、①登下校の指導や見守りが約9割、②運動会や文化祭の準備や片付けが約7割、③学校の図書室の整理や本の読み聞かせが約6割など。(同図28-1)
- シ 地域の活動にときどき参加している子が約4割で最も多く、ほぼ同数の子がよく参加している。その内容は、①地域の祭りや伝統行事が約8割、約4割が②愛護班や子ども会の活動、③地域の清掃等のボランティア活動、④地域の運動会に参加している。(同図29-1、図30-1)

中2の場合

- ア 本県の中2の場合は、午前6時から6時30分までの間に起床する子が約5割と最も多く、午前6時30分までに約6割が起床し、朝ごはんは8割以上が毎日食べ、9割以上が週5日以上食べている。徒歩で通学する子、自転車で通学する子は、それぞれ約4割いて、10分くらいで学校に着く子は約6割で、約9割が20分くらいのうちに学校に着いている。夜は、午後11時以降に就寝している子が約4割いる。(集計結果1の図3-1～図7-1)
- イ 6つの自己肯定感では、次の4つ(各項目とも「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が約8～9割)が当てはまっている。①毎日が楽しく、②自分のことを大切に思う人がいると思っており、③将来に希望をもっている。④まわりの人の役に立ちたいと考えている。また、次の2つ(「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせても約6～7割)はやや当てはまっている。⑤地域の人たちとの活動が好きで、⑥地域の人たちの活動には進んで参加している。(同図8-1-1～図8-6-1)
- ウ 放課後には、①部活動のため学校で7割以上が過ごし、家に帰る前後に、②学習塾に約4割が行ったり、③ショッピングセンターやスーパー、コンビニ等に約3割が行ったりしている。(同図10-1、図11-1)
- エ また、家では、①勉強を約8割がしたり、約6割が②家族と話をしたり、③テレビやDVDを見たりして過ごしている。(同図9-1)
- オ 休日は、①家で勉強を約7割がしたり、約6割が②テレビやDVDを見たり、③家族と話をしたりしている。また、①部活動のため学校に約7割が行ったり、②ショッピングセンターやスーパー、コンビニ等に約6割が、③友達の家にも約4割がよく出かけたりしている。(同図12-1、図13-1、図14-1)
- カ 放課後や休日によく話をするのは、①友達が約9割、②家族や親戚が約8割、

- ③学習塾や習い事、スポーツ活動の先生が約2割の順となっている。(同図15-1)
- キ 放課後や休日に、友達と遊ぶことがよくあるかときどきある子は約8割いて、遊ぶときには、2～3人でよく遊ぶ子が約6割、おおぜいでときどき遊ぶ子が約4割、上級生や下級生と遊ぶことがあまりないかほとんどない子が約6割いる。(同図16-1、図17-1-1～図17-3-1)
- ク 放課後や休日に家の手伝いをときどきする子が約5割と最も多く、よくするをあわせると約7割いる。そのうち、自ら進んで行っていたり任されていたりする手伝いがある子は、約7割である。主な手伝いとしては、①食事の準備や片付けが約6割、②家の中の掃除が約4割、③洗濯が約3割の順となっている。(同図18-1、19-1-1)
- ケ 放課後と休日の勉強時間は、ともに1時間くらいする子が最も多く、1時間以上勉強する子は、放課後、休日ともに約6割で、休日がやや多い。この1か月で読んだ本の平均は1人当たり3.5冊で、0冊が約2割、2冊までの子で約6割を占めている。(同図20-1-1、図21-1-1)
- コ 放課後や休日に学習塾に通っている子は約5割。習い事には約3割の子が通っており、その内容は約3割が①球技、②音楽である。(同図22-1、図25-1)
- サ 地域の人の活動で見たり聞いたりしているものとしては、①登下校の指導や見守りが約8割、②運動会や文化祭の準備や片付けが約6割、③部活動の指導が約4割など。(同図28-1)
- シ 地域の活動には約4割がときどき参加しておりよく参加するをあわせると約7割となる。その内容は、①地域の祭りや伝統行事が約9割、②地域の清掃等のボランティア活動が約4割、③地域の運動会などが約3割である。(同図29-1、図30-1)

(2) 起床・就寝時刻及び朝ごはんの頻度の特徴

問3「起床時刻」、問4「就寝時刻」及び問7「朝ごはんの頻度」の集計結果は集計結果1の図3-1、図4-1及び図7-1のとおりとなる。このうち、起床時刻については、本県の子どもたちは、朝6時30分までに、小5は74.3%、中2は59.2%が起床しており、全国調査※2-1と比較しても同程度の状況にあることが認められる。

また、朝ごはんを毎日食べる割合も、表2-(2)のとおり、小5は83.8%、中2は82.8%でそれぞれ同様の傾向にある。

子どもたちや保護者の皆さんの毎朝の頑張りがうかがえる結果となっている。

就寝時刻については、小5では午後10時までに66.1%が、午後11時までに95.1%が就寝しているが、中2では43.5%が午後11時以降に就寝している。

※2-1 内閣府の「平成25年版子ども・若者白書(平成23年調査)」によると、10～14歳(小4～中2)の平日の平均起床時刻は6時38分、就寝時刻の全国平均が22時24分となっている。

表2-(2) 朝ごはんを毎日食べる割合の調査結果比較一覧

	調 査 名	小学生(%)	中学生(%)
国	H29 全国学力・学習状況調査(公立)	小6 87.0	中3 82.7
県	H28 当課実態調査(前回調査)	小5 84.9	中2 80.8
	H29 今回調査	小5 83.8	中2 82.8

(3) 自己肯定感の特徴

問8の自己肯定感の集計結果は、集計結果1の図8-1-1から図8-6-1のとおりである。この自己肯定感は、子どもたちの「生きる力」を身に付けるために必要なものとして注目をされており、他の設問とのクロス集計を行うことにより、自己肯定感に係る影響等を把握することを目的の一つとして、昨年度の調査に続いて設けた

もので、今回は「(5) 地域の人たちとの活動には自ら進んで参加している」を加えた6項目を設問とした。

表2-(3)に、各問の肯定的回答(「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計)と否定的回答(「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」の合計)を整理し、それぞれ昨年度の回答と併せて比較したところ、回答によっては、増減が見られる。

この自己肯定感については、今後、継続的な調査を行うことで、一定の傾向も把握できるものと期待している。

なお、自己肯定感、肯定的回答の増加が期待されるが、否定的回答がゼロになることはなく、今回の調査でも5%から40%程度の否定的回答があることは、しっかりと銘記したい。

表2-(3) 問8 自己肯定感の肯定的回答と否定的回答の小5と中2別の比較

項 目	肯定的回答(%)		否定的回答(%)	
	小5	中2	小5	中2
(1)毎日が楽しい	91.7	90.2	8.2	9.6
(昨年度調査結果)	(93.2)	(86.8)	(6.8)	(13.0)
(2)自分のことを大切に思ってくれる人がある	96.2	95.0	3.7	5.0
(昨年度調査結果)	(95.2)	(89.4)	(4.8)	(10.4)
(3)自分の将来に希望をもっている	88.3	79.2	11.6	20.7
(昨年度調査結果)	(87.5)	(74.1)	(12.4)	(25.8)
(4)地域の人たちとの活動が好きである	77.4	69.5	22.3	30.4
(昨年度調査結果)	(77.4)	(61.0)	(22.5)	(38.7)
(5)地域の人たちとの活動には自ら進んで参加している	67.8	59.0	32.2	41.0
(6)まわりの人の役に立ちたい	88.8	89.5	10.9	10.5
(昨年度調査結果)	(90.9)	(82.0)	(8.6)	(14.7)

(4) 放課後や休日に家でよくしていることの特徴

- ① 問9「放課後に家でよくしていること」及び問12「休日に家でよくすること」の集計結果は、集計結果1の図9-1及び図12-1のとおりである。

その結果から、回答が50%を越えている項目数は、表2-(4)-1-1~2のとおり、放課後は、小5で4項目、中2で5項目、休日は、小5で4項目、中2で6項目となっている。これに、放課後や休日によく出かけるところのうち50%を超える項目数を加えると、放課後は、小5で5項目、中2で6項目、休日は、小5で6項目、中2は8項目となり、いずれも多忙感を感じる状況にある。

- ② また、問9と問12の「放課後や休日に家でよくしていること」を小5と中2で比較すると、次表2-(4)-1-1及び2のとおり、上位3項は、「勉強をする」、「テレビやDVDを見る」、「家族と話をする」で、放課後、休日とも、ほぼ同じになっている。

一方、4位以下は大きく入れ替わっており、その中では、「家の手伝いをする」が減少し、「メールやインターネットをする」が大きく増加している。

表 2-(4)-1-1 問 9 放課後に家でよくしていることの小 5 と中 2 の比較

小 5 (%)		中 2 (%)	
勉強をする	1 位 87.3	勉強をする	1 位 78.5
テレビやDVDを見る	2 位 66.0	家族と話をする	2 位 63.0
家族と話をする	3 位 63.8	テレビやDVDを見る	3 位 59.3
ゲームをする	4 位 52.7	本を読んだり音楽を聴いたりする	4 位 55.1
本を読んだり音楽を聴いたりする	5 位 43.9	メールやインターネットをする	5 位 53.7
家の手伝いをする	6 位 41.1	ゲームをする	6 位 48.5
関心のあること(趣味)をする	7 位 35.4	関心のあること(趣味)をする	7 位 41.4
メールやインターネットをする	8 位 16.3	家の手伝いをする	8 位 26.1

表 2-(4)-1-2 問 12 休日に家でよくすることの小 5 と中 2 の比較

小 5 (%)		中 2 (%)	
勉強をする	1 位 71.7	勉強をする	1 位 65.3
テレビやDVDを見る	2 位 66.0	テレビやDVDを見る	2 位 63.8
家族と話をする	3 位 60.7	家族と話をする	3 位 57.5
ゲームをする	4 位 58.8	メールやインターネットをする	4 位 54.4
本を読んだり音楽を聴いたりする	5 位 43.0	本を読んだり音楽を聴いたりする	5 位 51.8
家の手伝いをする	6 位 41.7	ゲームをする	6 位 51.4
関心のあること(趣味)をする	7 位 38.3	関心のあること(趣味)をする	7 位 45.9
メールやインターネットをする	8 位 16.7	家の手伝いをする	8 位 28.0

(注) 表の太線は、50%の以上のものを区分した。(以下の表も同じ。)

- ③ この問 9 と 12 の選択肢は、表 2-(4)-2-1 及びその脚注のとおり、その行為の着手や継続のしやすさに着目して、ア受動的な時間の選択肢、イ能動的な時間の選択肢、及びウ家族との時間の選択肢として分類の上、問を設定したものである。

その分類ごとの平均を比較すると表 2-(4)-2-2 のとおり、放課後と休日では、小 5 も中 2 も、若干ながら、ア受動的な選択肢は休日の方が高く、イ能動的な選択肢は放課後の方が高くなっている。また、小 5 と中 2 で比較すると、ア受動的な選択肢は小 5 の方が高く、イ能動的な選択肢は中 2 の方が高くなっている。

このことから、子どもたちは、放課後に若干ながら休日よりも能動的に過ごし、学年が上がるに従って、能動的な時間を増やしていることが推測される。

表 2-(4)-2-1 問 9 放課後や休日によくしていることの選択肢の分類による回答割合

項目	選択肢	小 5 (%)		中 2 (%)	
		放課後	休日	放課後	休日
ア受動的な時間	テレビやDVDを見る	66.0	66.0	59.3	63.8
	ゲームをする	52.7	58.8	48.5	51.4
	平均	59.4	62.4	53.9	57.6
イ能動的な時間	勉強(宿題や予習復習)をする	87.3	71.7	78.5	65.3
	本を読んだり音楽を聴いたりする	43.9	43.0	55.1	51.8
	関心のあること(趣味)をする	35.4	38.3	41.4	45.9
	平均	55.5	51.0	58.3	54.3
ウ家族との時間	家族と話をする	63.8	60.7	63.0	57.5
	家の手伝いをする	41.1	41.7	26.1	28.0
	平均	52.5	51.2	44.6	42.8

(注) ア受動的な時間：着手や継続が比較的簡単なもの。
 イ能動的な時間：着手は比較的簡単ながら、継続には本人の個性等に応じた努力を要するものや、着手や継続にある程度の努力を要するもの。
 ウ家族との時間：家族と直接関係するもの

※ 「メールやインターネットをする」については、その目的によって「受動的」な場合と「能動的」な場合がともに考えられることから、ここでの分類からは除いている。

表 2－(4)－2－2 放課後や休日に家でよくしていることの選択肢分類別の回答割合の比較

項 目		小 5 (%)	中 2 (%)	備考
ア受動的な時間の選択肢	放課後	59.4	53.9	放課後<休日 小 5 > 中 2
	休 日	62.4	57.6	
イ能動的な時間の選択肢	放課後	55.5	58.3	放課後>休日 小 5 < 中 2
	休 日	51.0	54.3	
ウ家族との時間の選択肢	放課後	52.5	44.6	放課後>休日 小 5 > 中 2
	休 日	51.2	42.8	

(5) 放課後や休日によく行くところの特徴

- ① 問 10「放課後によく行くところ」及び問 13「休日によく行くところ」の集計結果は、集計結果 1 の図 10－1 及び図 13－1 のとおりである。その集計結果から、小 5 と中 2 の比較を行うと、表 2－(5)－1、2 のとおり放課後と休日でも多少違いが見られる。選択肢は 10%以上の回答のあるものに限った。

まず、放課後では、小 5 では、1 位「習い事の教室」、2 位「友達の家」で、この 2 つは中 2 になると 4 位と 5 位に下がり、中 2 では 1 位「学校」、2 位「学習塾」となっており、習い事と学習塾は、学年により位置付けが違っていることが認められる。

なお、習い事への通いと学習塾への通いについては、昨年度も小 5 と中 2 を対象に学習塾と習い事をあわせてたずねており、その結果を表 2－(5)－1 に(参考)として掲載しているが、今回の調査結果とほぼ整合している。

- ② 放課後の小 5、中 2 とともに 3 位となっている「ショッピングセンターやスーパー、コンビニ等」については、休日には、小 5 で 1 位、58.1%、中 2 で 2 位、64.3%となっている。いずれも順位が高く回答も 50%を超えており、商業施設が子どもたちにとって大きな役割を持っていることがうかがえる。

ただし、今回の調査結果からは、回答の多い理由や商業施設に子どもたちが何のために行っているか等が分からないことから、今後の課題となる。

- ③ 放課後に中 2 で 1 位、75.7%の「学校」については、休日にも 1 位、71.1%である。また、その学校に行く目的は、表 2－(5)－3、4 のとおり部活動が、放課後、休日ともに 98.0%を越えている。

このことから、中 2 の放課後や休日は、部活動が行動の中心であることがうかがえる。

なお、部活動に所属しているのは、問 22 (※中 2 のみ)「部活動の状況」の集計結果 1 の図 32－1 のとおり、運動部 77.2%、文化部 16.1%、計 93.3%となっている。

表 2－(5)－1 問 10 放課後によく行くところの小 5 と中 2 の比較 (10%以上の回答)

小 5 (%)		中 2 (%)	
習い事の教室	1 位 60.4	学校	1 位 75.7
友達の家	2 位 32.7	学習塾	2 位 42.0
ショッピングセンター等	3 位 31.1	ショッピングセンター等	3 位 27.4
学校	4 位 29.8	習い事の教室	4 位 23.3
学習塾	5 位 26.0	友達の家	5 位 11.8
公園や広場等屋外施設	6 位 19.8	公園や広場等屋外施設	6 位 10.3
親戚や近所の家	7 位 12.7		
(再掲)習い事+学習塾	86.4	(再掲)習い事+学習塾	65.3
(参考)H28 調査:通塾有	78.1	(参考)H28 調査:通塾有	60.0

(注)H28 調査:通塾有は、塾と習い事をあわせて通いの有無を尋ねたもの。

表 2－(5)－2 問 13 休日によく行くところの小 5 と中 2 の比較 (10%以上の回答)

小 5 (%)		中 2 (%)	
ショッピングセンター等	1 位 58.1	学校	1 位 71.1
友達の家	2 位 50.6	ショッピングセンター等	2 位 64.3
習い事の教室	3 位 49.3	友達の家	3 位 40.5
公園や広場等屋外施設	4 位 27.3	学習塾	4 位 22.1
親戚や近所の家	5 位 24.2	公園や広場等屋外施設	5 位 21.3
学校	6 位 20.4	習い事の教室	6 位 19.1
まちの中心の公共施設	7 位 13.6	親戚や近所の家	7 位 18.8
学習塾	8 位 12.7		
近くの山や川、海など	9 位 10.1		

表 2－(5)－3 問 11 放課後に学校によく行く目的

小 5 (%)		中 2 (%)	
スポーツ少年団等活動参加	1 位 46.8	部活動への参加	1 位 98.4
勉強や宿題を教えてもらう活動	2 位 25.3		
学校で遊ぶため	3 位 13.2		

表 2－(5)－4 問 14 休日に学校によく行く目的

小 5 (%)		中 2 (%)	
スポーツ少年団等活動参加	1 位 59.9	部活動への参加	1 位 99.5
学校で遊ぶため	2 位 46.2		

(6) 放課後や休日によく話したり一緒に何かをしたりする人の特徴

問 15 の「放課後や休日によく話したり一緒に何かをしたりする人」の集計結果は、集計結果 1 の図 15－1 のとおりである。その結果から小 5 と中 2 を比較すると、表 2 の(6)のとおり、「家族・親戚」と「友達」が上位を占めている。このうち「友達」は、小 5 の回答割合 74.4%が、中 2 では 89.5%となるなど、子どもたちにとって、「友達」の存在の大きさがうかがえる。

表 2－(6) 問 15 放課後や休日によく話したり一緒に何かをしたりする人の小 5 と中 2 の比較

小 5 (%)		中 2 (%)	
家族・親戚	1 位 88.9	友達	1 位 89.5
友達	2 位 74.4	家族・親戚	2 位 79.5
塾や習い事等の先生	3 位 35.4	塾や習い事等の先生	3 位 23.4
地域の人	4 位 7.1	学校の先生	4 位 11.9
学校の先生	5 位 5.6	地域の人	5 位 5.0

(7) 放課後や休日の友達の遊びの特徴

問 16 と 17 の「放課後や休日の友達との遊び」の集計結果は、集計結果 1 の図 16－1、17－1－1～3－1 のとおりである。その結果から、表 2－(7) のとおり、それぞれの小 5 と中 2 の肯定的回答（「よくある」と「ときどきある」の合計）と否定的回答（「あまりない」と「ほとんどない」の合計）を整理すると小 5 と中 2 の回答は、いずれもほぼ同様の傾向が認められる。

遊びのイメージとしては、「小 5、中 2 とともに、4 人に 3 人は友達と遊んでおり、遊ぶ際には、友達 2～3 人と遊ぶことは多いものの、おおぜいだったり、上級生や下級生と遊んだりするのは、2 人に 1 人程度」となる。

なお、今回の調査では、放課後や休日の遊びの時間については、限定していないことから、習い事への通いや学習塾への通い、部活動等との関係については不明である。

表 2－(7) 問 16 放課後や休日に友達と遊ぶことと問 17 遊ぶ友達の状況の小 5 と中 2 の比較

項 目	肯定的回答 (%)		否定的回答 (%)	
	小 5	中 2	小 5	中 2
友達と遊ぶこと	72.7	76.9	26.6	22.8
おおぜいの友達と一緒に遊ぶこと	50.9	54.4	47.9	45.5
友達 2～3 人で遊ぶこと	91.6	90.8	7.3	8.9
上級生や下級生と遊ぶこと	51.5	41.3	46.6	58.4

(8) 放課後や休日の家の手伝いの特徴

- ① 問 18「放課後や休日の家での手伝い」の集計結果は、集計結果 1 の図 18－1 のとおりである。その結果から、小 5 と中 2 それぞれの肯定的回答（「よくする」と「ときどきする」の合計）と否定的回答（「あまりしない」と「まったくしない」の合計）を整理すると、肯定的回答が小 5 で 76.7%、中 2 で 66.6% となり、全体としては、子どもたちは家の手伝いを行っている印象となる。
- ② また、手伝いをあまりしない子どもたちを含めて、手伝いを行っている子どもたちを対象とした問 19(1)「自ら進んで行っていたり任されていたりする手伝いの有無」では、集計結果 1 の図 19－1－1 のとおり、小 5 で 79.4%、中 2 では 68.5% が「ある」と回答しており、小 5、中 2 とともに家庭内での自分の役割を意識していることがうかがえる状況にある。
- ③ 手伝いの内容では、表 2－(8) のとおり、小 5 と中 2 ではほとんど同じ順位となっている。

表 2－(8) 問 19 放課後や休日の家の手伝いで自ら進んで行っていたり任されていたりする手伝いの小 5 と中 2 の比較

小 5 (%)			中 2 (%)	
食事の準備や片付け	1 位 62.7	→	食事の準備や片付け	1 位 62.7
家の中の掃除	2 位 38.5	→	家の中の掃除	2 位 38.4
ペットの世話	3 位 29.2	↗	洗濯	3 位 31.6
洗濯	4 位 26.5	↘	ペットの世話	4 位 27.1
ごみ出し	5 位 25.6	→	ごみ出し	5 位 18.0
弟や妹の世話	6 位 23.3	→	弟や妹の世話	6 位 16.3
新聞・郵便取り	7 位 18.1	↗	買い物(お使い)	7 位 9.7
買い物(お使い)	8 位 13.2	↘	新聞・郵便取り	8 位 7.0
外の掃除や庭の手入れ	9 位 9.7	→	外の掃除や庭の手入れ	9 位 4.4

(9) 放課後や休日の家での勉強時間の特徴

問 20 の「放課後や休日の家での勉強時間」では、集計結果 1 の図 20－1－1、図 20－2－1 のとおりである。

小 5、中 2 ともに、家では「1 時間くらい」が最も多く、次いで「1 時間 30 分くらい」が多い。また、「家ではしない」と「15 分くらい」の合計と「2 時間くらいかそれ以上」とがほぼ同じである。

また、小 5 と中 2 の比較では、放課後はあまり違いはないが、休日には、中 2 の方が長く勉強している傾向が認められる。

(10) 1 か月に読む本の冊数の特徴

- ① 問 21 「最近 1 か月間に読んだ本の冊数」の集計結果は、集計結果 1 の図 21－1 のとおりである。その主な回答の状況をまとめた表 2－(10)－1 のとおり、回答のあった冊数は、個人によって読書冊数に大きな差があり、小 5 では 0 冊から 100 冊まで、中 2 では 0 冊から 96 冊までとなっている。また、回答冊数の平均（加重平均）は、小 5 で 8.9 冊、中 2 で 3.5 冊である。回答頻度の上位 3 位は、小 5 では 1 位 10 冊、2 位 5 冊、3 位 0 冊、中 2 では、1 位 2 冊、2 位 1 冊、3 位 0 冊となっている。

なお、3 主な分析結果(7)(P21)のクロス集計では、小 5、中 2 ともに、回答のあった冊数を 4 グループに分けて分析を行っている。

- ② 特徴の 2 つ目は、小 5、中 2 ともに 3 番目に回答の多い冊数は 0 冊となっていることである。また、回答割合は小 5：10.0%、中 2 で 17.4%であり、中 2 の方が多くなっている。

なお、表 2－(10)－1～2 のとおり、全国学力・学習状況調査の読書に関する調査結果の、「あてはまらない」と回答した児童生徒の割合が、今回の結果と同程度となっている。

表 2－(10)－1 問 21 最近 1 か月間に放課後や休日に読んだ本の冊数に係る主な回答の状況

項 目	小 5 (%)	中 2 (%)
最少冊数	0 冊 10.0	0 冊 17.4
最多冊数	100 冊 0.1	96 冊 0.1
一人当たり平均冊数 (加重平均)	8.9 冊	3.5 冊
1 番回答の多い冊数	10 冊 11.3	2 冊 21.6
2 番目に回答の多い冊数	5 冊 11.0	1 冊 21.1
3 番目に回答の多い冊数	0 冊 10.0	0 冊 17.4

表 2－(10)－2 全国学力・学習状況調査(公立)結果 (質問：読書は好きですか)

項 目	小 6 ・ 全 国 (%)		中 3 ・ 全 国 (%)	
	H29. 4	H28. 4	H29. 4	H28. 4
あてはまる	49. 0	49. 3	46. 1	46. 5
どちらかといえばあてはまる	25. 3	25. 3	23. 8	23. 4
どちらかといえばあてはまらない	15. 2	15. 3	16. 4	16. 2
あてはまらない	10. 3	9. 9	13. 4	13. 6

(11) 放課後や休日の学習塾(含：家庭教師)への通いの特徴

- ① 問 22「放課後や休日に学習塾に通っているか」については、集計結果 1 の図 22－1 のとおり、小 5 で 33. 4%、中 2 で 47. 7%が通っていると回答している。

参考数値とはなるが、東中南予別に学習塾に通っている割合を比較すると、図 22－2 (1) 及び図 22－2 (2) のとおり、小 5、中 2 とともに、東予>中予>南予となっている。同様に参考数値とはなるが、地域特性別に比較すると、図 22－3 (1) 及び図 22－3 (2) のとおり、都市部>住宅部>小集落となっている。

学習塾は、民間企業等が運営主体であることから、経営として成り立つ必要があり、どうしても人口の集積する都市部や町の中心部に立地する傾向があり、上記のような傾向が生じているものと見込まれる。

こうした状況から、人口の減少している地域での「放課後子ども教室」や「えひめ未来塾」といった放課後や休日を活用した支援事業については、学習支援の役割を重視した運営が期待されるものと考ええる。

- ② 問 23 及び問 24 の「放課後や休日に通う学習塾の頻度や内容」についても、小 5 と中 2 では違いが見られる。

学習塾に通う頻度では、表 2－(11)－1 のとおり、小 5 は週に 2 回ないし 1 回に対し、中 2 では 2 回ないし 3 回が多い。内容では、表 2－(11)－2 のとおり小 5 は高い順に算数、国語、英語(含：英会話)が、中 2 になると、英語(含：英会話)、数学、理科の順となり、その回答割合も国語を除き、いずれも増加している。

なお、主要 5 教科以外となる「その他」は、数パーセントにとどまっている。

表 2－(11)－1 問 23 放課後や休日に学習塾に通う頻度の上位回数的小 5 と中 2 の比較

小 5 (%)			中 2 (%)	
2 回	1 位 50. 2	→	2 回	1 位 44. 6
1 回	2 位 26. 6	↗	3 回	2 位 21. 5
3 回	3 位 10. 8	↘	1 回	3 位 21. 0
4 回	4 位 6. 1	→	4 回	4 位 5. 9

表 2－(11)－2 問 24 放課後や休日に学習塾に通う内容の小 5 と中 2 の比較

小 5 (%)			中 2 (%)	
算数(数学)	1 位 71. 0	↗	英語(含：英会話)	1 位 89. 9
国語	2 位 56. 9	↘	算数(数学)	2 位 83. 7
英語(含：英会話)	3 位 48. 1	↗	理科	3 位 28. 0
理科	4 位 12. 1	↘	国語	4 位 26. 7
社会	5 位 11. 8	→	社会	5 位 25. 0
その他	6 位 3. 7		その他	6 位 1. 2

(12) 放課後や休日の習い事(含：武道やスポーツ)への通いの特徴

- ① 問 25～問 27 の「放課後や休日に通う習い事の有無や頻度・内容」の集計結果は、集計結果 1 の図 25－1～図 27－3(2)のとおりで、小 5 で 73.3%、中 2 で 33.5%が通っている。このうち、習い事へ通う頻度について、小 5 と中 2 との比較を行うと、表 2－(12)－1 のとおり、小 5 では、週 1～5 回でいずれも 10%以上の回答があるのに対して、中 2 では、10%を超えているものは週 1 回ないし 2 回までである。上記(5)の①で見た習い事に通う順位が、小 5 より中 2 が低くなっているのと同様に、習い事に通う回数が「1 回」、「2 回」と少ない回数の回答割合は、小 5 より中 2 の方が高く、頻度でも低い傾向にある。

このことから、中 2 で、部活動等で多忙な中でも習い事に通っている子どもたちとしては、回数を減らしながらも習い事を継続していると思われる。

- ② 習い事の内容については、表 2－(12)－2 のとおり、小 5 と中 2 では、あまり違いはなく、ともに 1 位「球技」、2 位「音楽」となっている。

上記①及び 2 の下表から、習い事への通いに関しては、小学生のときから始めた習い事への通いを中 2 になっても続けている子どもたちも多いと思われる。

- ③ 参考数値となるが、習い事への通いについては、上記(11)の①の学習塾への通いで見られた東中南予別や地域特性別での一貫性のある傾向は見られない。

習い事の場合は、学習塾のように民間企業等だけでなく、例えばスポーツ少年団のように地域の人や保護者によるボランティア的な活動によるものも多く、地域特性等を問わず運営されていることによるものと考えられる。

表 2－(12)－1 問 26 放課後や休日に習い事の教室に通う頻度の小 5 と中 2 の比較(10%以上の回答のある項目)

小 5 (%)		中 2 (%)	
1 回	1 位 23.0	1 回	1 位 44.0
3 回	2 位 19.9	2 回	2 位 23.9
2 回	3 位 19.3		
4 回	4 位 16.7		
5 回	5 位 11.3		

表 2－(12)－2 問 27 放課後や休日に通う習い事の教室の内容の小 5 と中 2 の比較(10%以上の回答のある項目)

小 5 (%)		中 2 (%)	
球技(野球、サッカー等)	1 位 42.8	球技(野球、サッカー等)	1 位 31.0
音楽(ピアノ、エレクトーン等)	2 位 29.0	音楽(ピアノ、エレクトーン等)	2 位 27.5
習字	3 位 26.4	武道(柔道、剣道等)	3 位 17.3
水泳(スイミングスクール)	4 位 26.2	習字	4 位 15.5
武道(柔道、剣道等)	5 位 14.1		

(13) 学校等における地域の人々の活動に対する子どもたちの認知状況に関する特徴

問 28「地域の人々の活動で見たり聞いたりしたもの」の集計結果は、集計結果 1 の図 28－1 のとおりである。

この設問は、現在、各市町と県で連携して実施している「放課後児童クラブ」(保健福祉部等所管事業)、ないし「学校・家庭・地域連携推進事業」(教育委員会等所管事業)に係る、放課後や休日における地域の人々の活動に対する子どもたちの認知状況を把握する目的で加えたものである。

その結果を、小 5 と中 2 で比較すると、表 2－(13)のとおり、子どもたちの認知度が 50%を超えるものが、小 5 で 3 項目、中 2 で 2 項目あるなど、地域の方々による活動は一定の認知度のあることが認められる。

表 2－(13) 問 28 地域の人々の活動で見たたり聞いたりしているもの

項 目	小 5 (%)	中 2 (%)
登下校の指導や見守り	1 位 85.4	1 位 79.9
運動会や文化祭の準備や片付け	2 位 67.8	2 位 60.1
学校の図書室の整理や本の読み聞かせ	3 位 56.4	4 位 26.8
学校の授業への参加や応援	4 位 37.9	6 位 15.6
スポーツ少年団や部活動の指導	5 位 35.3	3 位 37.2
学校の掃除や植木の剪定	7 位 28.5	5 位 20.8
①上記平均	51.9	40.1
②放課後子ども教室や放課後児童クラブ等の世話	6 位 32.2	7 位 15.0
③放課後や休日の体験活動の世話	8 位 22.5	8 位 11.5

(14) 地域の活動への参加状況の特徴

- ① 問 29「地域の活動への参加状況」の集計結果は、集計結果 1 の図 29－1 のとおりである。この結果から、小 5 と中 2 の肯定的回答（「よく参加している」と「ときどき参加している」の合計）と否定的回答（「あまり参加していない」と「参加していない」の合計）を比較すると、表 2－(14)－1 のとおり、肯定的回答と否定的回答の比率は小 5 ではほぼ 75 : 25、中 2 ではほぼ 65 : 35 となる。この比率は、昨年度の回答結果もほぼ同様の状況にある。

このため、現在の本県の子どもたちの地域の活動への参加のイメージは、小 5 で 4 人中 3 人程度、中 2 になると 3 人中 2 人程度となる。

- ② 今回の小 5 と中 2 の地域の活動の参加状況については、学年が異なるものの、全国学力・学習状況調査による全国の地域の行事への参加状況をともに上回っている。
- ③ 問 31「地域の活動に参加しない理由」の集計結果は、集計結果 1 の図 31－1 のとおりである。その結果から、小 5 と中 2 の回答を整理すると、表 2－(14)－3 のとおり、いずれも 50% 以下の回答となっている。そのうち上位 3 項目は、順位は異なるものの小 5、中 2 とともに同じ内容であり、ア「どんな活動があるか知らない」、イ「参加する時間がない」、ウ「地域の活動に興味がない」となっている。このうちイは子どもたちの側の都合であるが、アとウは地域の努力により解決も可能な項目である。

表 2－(14)－1 問 29 地域の活動への参加状況の昨年度調査との比較

学 年 項 目	小 5 (%)				中 2 (%)			
	今回調査		昨年度調査		今回調査		昨年度調査	
	4 区分	2 区分	5 区分	2 区分	4 区分	2 区分	5 区分	2 区分
よく参加している	37.0	75.8	29.0	74.4	21.7	65.9	18.0	62.7
ときどき参加している	38.8		45.4		44.2		44.7	
あまり参加したことがない	12.1	23.4	15.5	24.7	20.0	33.8	22.3	36.8
参加していない	11.3		3.3		13.8		3.6	
今もこれからも参加しない	—		5.9		—		10.9	

表 2－(14)－2 全国学力・学習状況調査(公立)の地域の行事への参加状況

(質問：今住んでいる地域の行事に参加していますか。)

学 年	小 6 (H29 全国値・%)				中 3 (H29 全国値・%)			
項 目	H29.4		H28.4		H29.4		H28.4	
あてはまる	35.0	62.6	39.1	67.9	16.9	42.1	19.1	45.2
どちらかといえば当てはまる	27.6		28.8		25.2		26.1	
どちらかといえば当てはまらない	19.0	37.4	18.0	32.0	26.9	57.8	26.8	54.8
当てはまらない	18.4		14.0		30.9		28.0	

表 2－(14)－3 問 30 地域の活動に参加しない理由の小 5 と中 2 の比較

小 5 (%)		中 2 (%)	
どんな活動があるのか知らない	1 位 48.5	参加する時間がない	1 位 41.9
参加する時間がない	2 位 41.6	地域の活動に興味がない	1 位 41.9
地域の活動に興味がない	3 位 32.7	どんな活動があるのか知らない	3 位 36.8
興味がわく内容がない	4 位 25.7	興味がわく内容がない	4 位 35.0
一緒に参加する人がいない	5 位 24.8	場所や時間があわない	5 位 19.7
場所や時間があわない	6 位 21.8	一緒に参加する人がいない	6 位 18.8

3 主な分析結果

(分析結果の概要)

各問間のクロス集計による分析結果を、それぞれ分析結果 1～8 としてまとめた。
この項では、その分析結果から認められた主な特徴を (1)～(8) に記載する。

(1) スクールバスで通学する子どもたちの放課後や休日等の過ごし方の特徴 (「分析結果 1」参照)

通学にスクールバスを利用する子どもたちの放課後や休日等の過ごし方について、クロス集計により把握を試みた。少子化に伴う学校の統廃合等によるスクールバスの利用は今後も継続が見込まれることによる。クロス集計の結果認められた主な特徴は次のとおりである。

なお、今回の調査では、スクールバス利用の回答者数及び回答割合は次のとおり。

学年	スクールバス利用者	地域特性別内訳 (%は各地域特性に占める割合)		
		都市部	住宅部	小集落
小 5	64 人・7.2%	6 人・1.6%	22 人・6.2%	36 人・21.4%
中 2	75 人・8.9%	12 人・3.5%	4 人・1.1%	59 人・37.6%

- ① スクールバス利用者が、小 5、中 2 とともに全体との違いが認められたのは、次の 6 項目である。

- ア 早寝早起きであること (分析 1-1-1～1-2-3)
- イ 地域の人たちとの活動が好きであること (分析 1-8-1～3)
- ウ 地域の人たちとの活動には自ら進んで参加していること (分析 1-9-1～3)
- エ 友達と遊ぶ割合は低いこと。上級生や下級生と遊ぶ割合は高いこと (分析 1-15-1～分析 1-19-3)
- オ 学習塾に通う割合が低くなっていること (分析 1-23-1～3)
- カ 地域の活動への参加の割合が高いこと (分析 1-26-1～3)

なお、このうち自己肯定感に関するイ、ウ及び地域の活動に関するカは、スクールバス利用者の大半が小集落在住者であることに由来するものと考えられる。

- ② 放課後や休日に家でよくしていることを、スクールバス利用者と各学年全体で比較すると、表 3－(1)－1－1～表 3－(1)－2－2 のとおり、小 5 では、スクールバス利用者は、能動的な時間の選択肢である「勉強をする」や「本を読んだり音楽を聴いたりする」の回答割合が高くなっている一方で、「テレビや DVD を見る」や「ゲームをする」の受動的な時間の選択肢の割合は低くなっている。休日にも似た傾向にある。

中 2 のスクールバス利用者は、反対に、放課後、休日とも「勉強をする」の回答割合が中 2 全体より低くなり、順位も休日は 4 位に下がっている。

- ③ 放課後や休日によく行くところでは、表 3－(1)－3－1～表 3－(1)－4－2 のとおり、中 2 では、スクールバス利用者は、多くの項目で回答割合が低くなっている。この傾向は小 5 の放課後でも見られ、時間的な制約やスクールバス利用という限られた通学方法が影響しているものと考えられる。なお、小 5 の休日については、居住環

境によるのではないかと推測される。

- ④ これらの状況からスクールバス利用の子どもたちは、全体と比較して、早寝早起きで地域の活動によく参加し、地域の人や異学年の友達など、人間関係に相対的に恵まれているものの、習い事や学習塾など、学習環境には相対的に不利な状況にあることが認められる。

このため、「2 主な集計結果」の(11) (P11) の人口の減少している地域で提案を行っている「放課後子ども教室」や「えひめ未来塾」などの支援事業の学習支援の役割を重視した実施は、スクールバス利用者の通学する学校でも期待されるものと考えられる。

表 3-(1)-1-1 問 9 放課後に家でよくしていることのスクールバス利用者と小 5 全体との比較

小 5 全体 (%)			小 5 のスクールバス利用者 (%)	
勉強をする	1 位 87.3	←→	勉強をする	1 位 89.1
テレビやDVDを見る	2 位 66.0	↗↘	家族と話をする	2 位 64.1
家族と話をする	3 位 63.8	↗↘	テレビやDVDを見る	3 位 57.8
ゲームをする	4 位 52.7	↗↘	本を読んだり音楽を聴いたりする	4 位 50.0
本を読んだり音楽を聴いたりする	5 位 43.9	↗↘	ゲームをする	5 位 48.4
家の手伝いをする	6 位 41.1	↗↘	関心のあること(趣味)をする	6 位 39.1
関心のあること(趣味)をする	7 位 35.4	↗↘	家の手伝いをする	7 位 32.8
メールやインターネットをする	8 位 16.3	←→	メールやインターネットをする	8 位 10.9

表 3-(1)-1-2 問 12 休日に家でよくすることのスクールバス利用者と小 5 全体との比較

小 5 全体 (%)			小 5 のスクールバス利用者 (%)	
勉強をする	1 位 71.7	←→	勉強をする	1 位 78.1
テレビやDVDを見る	2 位 66.0	←→	テレビやDVDを見る	2 位 62.5
家族と話をする	3 位 60.7	←→	家族と話をする	3 位 59.4
ゲームをする	4 位 58.8	←→	ゲームをする	4 位 54.7
本を読んだり音楽を聴いたりする	5 位 43.0	←→	本を読んだり音楽を聴いたりする	5 位 48.4
家の手伝いをする	6 位 41.7	↗↘	関心のあること(趣味)をする	6 位 45.3
関心のあること(趣味)をする	7 位 38.3	↗↘	家の手伝いをする	7 位 40.6
メールやインターネットをする	8 位 16.7	←→	メールやインターネットをする	8 位 20.3

表 3-(1)-2-1 問 9 放課後に家でよくしていることのスクールバス利用者と中 2 全体の比較

中 2 全体 (%)			中 2 のスクールバス利用者 (%)	
勉強をする	1 位 78.5	←→	勉強をする	1 位 68.0
家族と話をする	2 位 63.0	←→	家族と話をする	2 位 65.3
テレビやDVDを見る	3 位 59.3	←→	テレビやDVDを見る	3 位 61.3
本を読んだり音楽を聴いたりする	4 位 55.1	←→	本を読んだり音楽を聴いたりする	4 位 53.3
メールやインターネットをする	5 位 53.7	↗↘	関心のあること(趣味)をする	5 位 44.0
ゲームをする	6 位 48.5	↗↘	ゲームをする	6 位 41.3
関心のあること(趣味)をする	7 位 41.4	↗↘	メールやインターネットをする	6 位 41.3
家の手伝いをする	8 位 26.1	←→	家の手伝いをする	8 位 29.3

表3-(1)-2-2 問12休日に家でよくすることのスクールバス利用者と中2全体との比較

中2全体 (%)		中2のスクールバス利用者 (%)	
勉強をする	1位 65.3	テレビやDVDを見る	1位 65.3
テレビやDVDを見る	2位 63.8	家族と話をする	2位 56.0
家族と話をする	3位 57.5	本を読んだり音楽を聴いたりする	3位 54.7
メールやインターネットをする	4位 54.4	勉強をする	4位 52.0
本を読んだり音楽を聴いたりする	5位 51.8	関心のあること(趣味)をする	5位 49.3
ゲームをする	6位 51.4	メールやインターネットをする	5位 49.3
関心のあること(趣味)をする	7位 45.9	ゲームをする	7位 48.0
家の手伝いをする	8位 28.0	家の手伝いをする	8位 22.7

表3-(1)-3-1 問10放課後によく行くところのスクールバス利用者と小5全体との比較 (10%以上の回答のある項目)

小5全体 (%)		小5のスクールバス利用 (%)	
習い事の教室	1位 60.4	習い事の教室	1位 46.9
友達の家	2位 32.7	学校	2位 32.8
ショッピングセンター等	3位 31.1	ショッピングセンター等	3位 18.8
学校	4位 29.8	近くの山や川、海など	4位 15.6
学習塾	5位 26.0	学習塾	5位 14.1
公園や広場等屋外施設	6位 19.8	親戚や近所の家	5位 14.1
親戚や近所の家	7位 12.7	友達の家	7位 10.9

表3-(1)-3-2 問13休日によく行くところのスクールバス利用者と小5全体の比較 (10%以上の回答のある項目)

小5全体 (%)		小5のスクールバス利用 (%)	
ショッピングセンター等	1位 58.1	ショッピングセンター等	1位 48.4
友達の家	2位 50.6	習い事の教室	2位 37.5
習い事の教室	3位 49.3	友達の家	3位 35.9
公園や広場等屋外施設	4位 27.3	親戚や近所の家	4位 25.0
親戚や近所の家	5位 24.2	近くの山や川、海など	4位 25.0
学校	6位 20.4	学校	6位 20.3
まちの中心の公共施設	7位 13.6	公園や広場等屋外施設	6位 20.3
学習塾	8位 12.7	家の近くにある公共施設	8位 12.5
近くの山や川、海など	9位 10.1	まちの中心の公共施設	9位 10.9

表3-(1)-4-1 問10放課後によく行くところのスクールバス利用者と中2全体との比較 (10%以上の回答のある項目)

中2全体 (%)		中2のスクールバス利用 (%)	
学校	1位 75.7	学校	1位 85.3
学習塾	2位 42.0	学習塾	2位 28.0
ショッピングセンター等	3位 27.4	ショッピングセンター等	3位 20.0
習い事の教室	4位 23.3	習い事の教室	4位 18.7
友達の家	5位 11.8	近くの山や川、海など	5位 10.7
公園や広場等屋外施設	6位 10.3		

表 3－(1)－4－2 問13休日によく行くところのスクールバス利用者と中2全体の比較（10%以上の回答のある項目）

中2全体 (%)			中2のスクールバス利用 (%)	
学校	1位 71.1	↔	学校	1位 70.7
ショッピングセンター等	2位 64.3	↔	ショッピングセンター等	2位 52.0
友達の家	3位 40.5	↔	友達の家	3位 36.0
学習塾	4位 22.1	↔	公園や広場等屋外施設	4位 21.3
公園や広場等屋外施設	5位 21.3	↔	近くの山や川、海など	5位 18.7
習い事の教室	6位 19.1	↔	習い事の教室	6位 13.3
親戚や近所の家	7位 18.8	↔	親戚や近所の家	6位 13.3

(2) 「早寝早起き朝ごはん」と自己肯定感の関係の特徴（「分析結果2」参照）

分析結果2は、問3起床時刻、問4就寝時刻及び問7朝食の頻度と、問8自己肯定感のクロス集計の結果である。

今回の調査でも、早寝早起きの子どもたちほど、また朝ごはんを食べる頻度の高い子どもたちほど、自己肯定感の高いことが認められた。

グラフから小5、中2ともその関係が明確に認められるのは次のものとなっている。

ア 起床時刻～毎日が楽しい（分析2-(1)1-1～3）

同 ～自分の将来に希望をもっている（分析2-(1)3-1～3）

同 ～地域の人たちとの活動が好きである（分析2-(1)4-1～3）

同 ～地域の人たちとの活動には自ら進んで参加している（分析2-(1)5-1～3）

イ 就寝時刻～毎日が楽しい（分析2-(2)1-1～3）

同 ～自分の将来に希望をもっている（分析2-(2)3-1～3）

同 ～地域の人たちとの活動が好きである（分析2-(2)4-1～3）

同 ～地域の人たちとの活動には自ら進んで参加している（分析2-(2)5-1～3）

同 ～まわりの人の役に立ちたい（分析2-(2)6-1～3）

ウ 朝ごはんについては、「毎日食べる」と「ほとんど食べない」では、6つの自己肯定感とも、毎日食べる子どもたちほど自己肯定感の高い子どもたちが多いという関係が認められる。（分析2-(3)1-1～2-(3)6-3）、ただし、朝ごはんの頻度の違い（週に1・2日、3日以上、5日以上）による関係性は必ずしも明確ではない。

(3) 家の手伝いと自己肯定感の関係の特徴（「分析結果3」参照）

分析結果3は、問18「放課後や休日の家の手伝い」と問8の6項目の「自己肯定感」に関する回答のクロス集計を行ったものである。

その結果、分析3-1-1～分析3-6-3のとおり、家の手伝いをよくする子どもたちほど、6つの自己肯定感全てについて、肯定的回答の割合が高いという関係にあることが認められた。

(4) 地域の活動への参加状況と放課後や休日等の過ごし方の関係の特徴（「分析結果4」参照）

分析結果4では、問29「地域の活動への参加状況」と放課後や休日等の過ごし方に関わる主な問とのクロス集計を行ったものである。その結果、次のような特徴が認められた。

- ① 放課後や休日によく行くところのうち、問23「学習塾」、問26「習い事」、及び問22「部活動（中2のみ）」の各設問と、問29「地域の活動への参加状況」とのクロス

集計を行うと、「学習塾への通い」では、分析4-5-1～3のとおり、小5、中2ともに、学習塾へ通っていない子どもたちよりも、通っている子どもたちの方が地域の活動に参加する頻度が低くなっている。また、学習塾に通う回数が増えるほど、地域の活動に参加する頻度が低くなっていることから、「学習塾への通い」と「地域の行事への参加」は競合関係にあることが認められる。

一方、「習い事」では、分析4-6-1～3のとおり、小5、中2ともに、習い事に通っていない子どもたちよりも、習い事に通っている子どもたちの方が、地域の活動に参加する頻度が高くなっており、学習塾への通いとは反対の関係にあることが認められる。

また、「部活動(中2のみ)」では、分析4-9及び次表3-(4)-1のとおり、運動部、文化部ともに、部活動に入っている子どもたちは、部活動に入っていない子どもたちに比べて、地域の活動に参加する頻度が高くなっており、地域の活動に「よく参加する」と、「ときどき参加している」を合わせた肯定的回答は、運動部に入っている子どもたちでは68.6%、文化部に入っている子どもたちでは60.3%である。

このため、多忙と思われる中学生についても、学習塾を除き、部活動や習い事については、必ずしも地域の行事への参加と競合するものではなく、また、子どもたちの多くが「まわりの人に役に立ちたい」(表2-(3)、小5:88.8%、中2:89.5%)と回答をしていること等も考慮すると、地域の行事を開催する際には、中学生に対してもまずは参加を呼び掛けることが大切と考えられる。

表3-(4)-1 部活動(中2のみ)への参加状況と地域の活動への参加状況の関係(%)

地域の活動への参加状況	運動部に入っている		文化部に入っている		部活動に入っていない		計	
よく参加している	25.2	68.6	10.3	60.3	9.3	50.0	21.7	65.9
ときどき参加している	43.4		50.0		40.7		44.2	
あまり参加したことがない	18.3	31.3	22.8	39.7	33.3	50.0	20.0	33.8
参加していない	13.0		16.9		16.7		13.8	
合計	99.9		100.0		100.0		99.7	

(注)運動部と文化部の両方に入っているとの回答はゼロ。

合計は、無効回答(3)及び端数処理の関係から100.0%にはなっていない。

- ② 問16「放課後や休日に友達と遊ぶこと」と問20「地域の活動へ参加状況」の関係では、分析4-4(1)-1～3のとおり、小5、中2ともに、友達と遊ぶ頻度が高いほど、地域の活動に参加する頻度が高いという関係が認められる。
- ③ 問8「自己肯定感」の6つの自己肯定感いずれも、分析4-10(1)-1～分析4-10(6)-3のとおり、自己肯定感が高いほど、地域の活動に参加する頻度が高いという関係が認められる。
- ④ これらのことから、地域の活動への参加は、子どもたちにとって生きる力等を養う貴重な機会ということが認められるが、小5に比べて、中2は参加頻度が少なくなっている(集計結果1の図29-1)。その理由の一つに上記①(前掲)の「学習塾への通い」が考えられる。

この点で、「放課後子ども教室」や「えひめ未来塾」、「土曜教育支援」等は、地域の人々の応援を得ながら、学校等において、子どもたちの安全な居場所や学習支援、体験活動の提供等を行うものであり、子どもたちにとって、学習塾の機能と地域の人との関係を作る機能を提供するものとなる。

(5) 学習塾への通いと放課後や休日等の過ごし方の関係の特徴（「分析結果5」参照）

分析結果5では、問23「学習塾へ通う頻度」と放課後や休日等の過ごし方に関わる主な問とのクロス集計を行ったものである。その結果、次のような特徴が認められた。

- ① 問23「学習塾に通う頻度」と問3「就寝時刻」とのクロス集計の結果から、分析5-2-2～3のとおり、小5、中2ともに学習塾に通う頻度が高いほど就寝時刻が遅くなる傾向が認められる。
- ② 問23「学習塾に通う頻度」と問20（1）「放課後の家での勉強時間」のクロス集計分析5-4-1～3から、表3-(5)-1-1～表3-(5)-2-2のとおり、家での勉強時間が1時間より短いグループと1時間以上の長いグループに分けて、学習塾の頻度ごとの回答割合を比較すると、小5、中2ともに、1時間より長いグループでは、学習塾に通っていない場合の回答よりも学習塾に通っている場合の回答の方が、概ね高くなっている。

このことから、家での勉強時間の長いグループでは、学習塾に通う方が、家での勉強時間も長くなるという傾向が認められる。一方、短いグループでは、概ねこの逆の傾向が認められる。

この点からの支援策としては、子どもたちが短いグループから長いグループに移るためのきっかけを提供することが肝要となる。

表3-(5)-1-1 問22 学習塾へ通う頻度と放課後の家での勉強時間の関係（小5）

小5	学習塾に通っていない(%)	学習塾に通っている(%)					
		1回		2回		3回以上	
家ではない	2.4	2.5	27.9	2.0	34.9	7.6	28.8
15分くらい	3.9	5.1		4.7		3.0	
30分くらい	11.3	8.9		14.1		10.6	
45分くらい	16.1	11.4		14.1		7.6	
1時間位	18.5	16.5	72.2	16.8	60.4	22.7	68.2
1時間30分くらい	38.0	45.6		32.9		28.8	
2時間くらいかそれ以上	5.3	10.1		10.7		16.7	

表3-(5)-1-2 問22 学習塾へ通う頻度と放課後の家での勉強時間の関係（中2）

中2	学習塾に通っていない(%)	学習塾に通っている(%)					
		1回		2回		3回以上	
家ではない	4.3	5.9	37.7	5.6	27.3	8.1	36.1
15分くらい	5.0	5.9		3.9		2.2	
30分くらい	18.4	14.1		8.9		18.4	
45分くらい	14.5	11.8		8.9		7.4	
1時間くらい	18.9	17.6	58.8	26.1	70.0	22.8	62.5
1時間30分くらい	28.6	35.3		33.9		25.7	
2時間くらいかそれ以上	8.6	5.9		10.0		14.0	

表 3－(5)－2－1 問 22 学習塾へ通う頻度と休日の家での勉強時間の関係（小 5）

小 5	学習塾に通っていない(%)	学習塾に通っている(%)					
		1 回		2 回		3 回以上	
家ではしない	6.7	3.8	40.5	5.4	42.3	7.6	34.8
15 分くらい	11.5	3.8		10.7		4.5	
30 分くらい	15.4	15.2		16.1		13.6	
45 分くらい	16.1	17.7		10.1		9.1	
1 時間位	21.6	20.3	59.6	25.5	51.7	18.2	59.1
1 時間 30 分くらい	12.3	22.8		14.8		13.6	
2 時間くらいかそれ以上	10.3	16.5		11.4		27.3	

表 3－(5)－2－2 問 22 学習塾へ通う頻度と休日の家での勉強時間の関係（中 2）

中 2	学習塾に通っていない(%)	学習塾に通っている(%)					
		1 回		2 回		3 回以上	
家ではしない	6.1	12.9	38.7	7.2	29.4	13.2	33.0
15 分くらい	5.5	3.5		4.4		2.9	
30 分くらい	12.5	12.9		7.8		12.5	
45 分くらい	10.5	9.4		10.0		4.4	
1 時間くらい	24.1	29.4	57.7	24.4	67.1	17.6	64.7
1 時間 30 分くらい	22.3	16.5		19.4		19.9	
2 時間くらいかそれ以上	17.3	11.8		23.3		27.2	

(6) 習い事への通いと放課後や休日等の過ごし方の関係の特徴（「分析結果 6」参照）

分析結果 6 は、問 26 の「習い事に通う回数」と放課後や休日等の過ごし方に関わる主な問のクロス集計を行ったものである。その結果、次のような特徴が認められた。

- ① 問 26「習い事に通う頻度」と問 4「就寝時刻」とのクロス集計では、分析 6－2－2～3 のとおり、小 5、中 2 とともに、学習塾に通う頻度が高いほど就寝時刻が遅くなるといった明確な傾向は認められない。これは、上記（5）の①で見た学習塾の特徴とは異なる。
- ② 問 26「習い事」は内容も多様で、男子、女子それぞれの特徴を生かしたものも多いことから、問 1「性別」とのクロス集計を行った。分析 6－8－1～3 の結果から、男子、女子それぞれで 10%を超える主な習い事について、小 5 と中 2 との比較を行ったところ、表 3－(6)－3－1～2 のとおり、男子の上位は、小 5 で 1 位「球技」、2 位「水泳」、3 位「武道」で、このうち、「球技」と「武道」は、中 2 でも 10%を超えている。女子では、小 5 で 1 位「音楽」、2 位「習字」、3 位「球技」、4 位「水泳」で、このうち、「音楽」と「習字」、「球技」が中 2 でも 10%を超えている。

このことから、上記 2 (12) の②で見た中 2 で習い事を続けている子どもたちは、球技では男子と女子が、武道では男子が、音楽や習字では女子が中心となっていることがうかがえる。

表 3－(6)－1 問 23 習い事の教室の男子の小 5 と中 2 の構成比の比較（男子）
（10%以上の回答）

小 5 ・ 男子 (%)		中 2 ・ 男子 (%)	
球技(野球、サッカー等)	1 位 27.5	球技(野球、サッカー等)	1 位 19.7
水泳(スイミングスクール)	2 位 14.1	武道(柔道、剣道等)	2 位 12.0
武道(柔道、剣道等)	3 位 10.7		

表 3－(6)－2 問 23 習い事の教室の女子の小 5 と中 2 の構成比の比較（女子）
（10%以上の回答）

小 5 ・ 女子 (%)			中 2 ・ 女子 (%)	
音楽(ピアノ、バイオリン等)	1 位 23.3	→	音楽(ピアノ、バイオリン等)	1 位 22.9
習字	2 位 17.5	→	習字	2 位 12.0
球技(野球、サッカー等)	3 位 15.3	→	球技(野球、サッカー等)	3 位 11.3
水泳(スイミングスクール)	4 位 12.1			

(7) 読書と放課後や休日等の過ごし方の関係の特徴（「分析結果 7」参照）

分析結果 7 は、問 21 の「1 か月間に読んだ本の冊数」と主な問のクロス集計を行ったものである。ただし、1 か月に読んだ本の回答は、冊数にばらつきが大きいことから、クロス集計については、小 5 と中 2 で冊数が一致するよう次の 4 区分で実施した。その結果、次のような特徴が認められた。

4 区分の内訳（分析結果 7 の 4 区分の内訳参照）

項目	小 5 ・ 回答率 (%)	中 2 ・ 回答率 (%)	全体 ・ 回答率 (%)
0 冊	89 人 ・ 10.0	147 人 ・ 17.4	236 人 ・ 13.6
1～2 冊	118 人 ・ 13.3	362 人 ・ 42.7	480 人 ・ 27.6
3～5 冊	245 人 ・ 27.5	213 人 ・ 25.1	458 人 ・ 26.4
6 冊以上	432 人 ・ 48.5	123 人 ・ 14.5	555 人 ・ 32.0

- ① 読書の冊数が多いと就寝時刻が遅くなると一般には思われるが、問 21「読書の冊数」と問 4「就寝時刻」とのクロス集計では、分析 7－3－2、3 のとおり、小 5、中 2 とも、読書の冊数が多いほど、かえって就寝時刻が早くなっている傾向にある。これは、上記（6）の①の習い事でも見られた傾向である。
- ② 問 21「読書の冊数」と問 9「放課後に自分の家でよくしていること」とのクロス集計、分析 7－4－2～3 の結果から、読書の冊数が「0 冊」のグループと「3～5 冊」のグループ（読書をする層では真ん中に位置する）のそれぞれ家でよくしていることを比較すると、表 3－(7)－1－1、2 のとおり、小 5 では、3～5 冊のグループでは「ゲームをする」が順位、回答割合とも低くなっている。
一方、中 2 では、「ゲームをする」が、3～5 冊のグループでは同様に低くなっている。これらは、上記①で読書の時間が就寝時刻に影響していない理由の一つと考えられる。
休日についても、表 3－(7)－2－1、2 のとおり、小 5 では 3～5 冊のグループの「ゲームをする」や「メールやインターネットをする」の回答割合が低くなっており、中 2 でも同様の傾向にある。
- ③ 問 21「読書の冊数」と問 21(1)及び(2)の「放課後及び休日の家での勉強時間」とのクロス集計では、分析 7－6(1)－1～分析 7－6(2)－3 のとおり、小 5、中 2 ともに、読書の冊数が多いほど、家での勉強時間も長い関係のあることが認められる。
- ④ これらの状況から、読書については、放課後や休日等の過ごし方と関係していることが特徴として認められる。また、読書の習慣は、幼少期の読み聞かせや、小学校での読書の時間などで身に付けることができることから、現在、県教育委員会においても、昨年度から新たに県内の小学校 4～6 年生に読書の記録のできる「みきゃん通帳」の配付を行うなど小中学生への読書習慣の定着を図っているところである。

表 3-(7)-1-1 問 21 読書の冊数が「0冊」と「3～5冊」の放課後に家でよくしていることの比較 (小5)

小5・読書0冊 (%)			小5・読書3～5冊 (%)	
勉強をする	1位 75.3	↔	勉強をする	1位 87.3
ゲームをする	2位 73.0	↗	家族と話を	2位 65.3
テレビやDVDを見る	3位 64.0	↘	テレビやDVDを見る	2位 65.3
家族と話を	4位 51.7	↗	ゲームをする	4位 57.6
本を読んだり音楽を聴いたりする	5位 31.5	↔	本を読んだり音楽を聴いたりする	5位 38.4
家の手伝いをする	6位 28.1	↔	家の手伝いをする	6位 37.1
関心のあること(趣味)をする	7位 25.8	↔	関心のあること(趣味)をする	7位 30.6
メールやインターネットをする	8位 24.7	↔	メールやインターネットをする	8位 16.3

表 3-(7)-1-2 問 21 読書の冊数が「0冊」と「3～5冊」の放課後に家でよくしていることの比較 (中2)

中2・読書0冊 (%)			中2・読書3～5冊 (%)	
勉強をする	1位 73.5	↔	勉強をする	1位 82.6
家族と話を	2位 57.1	↗	本を読んだり音楽を聴いたりする	2位 63.8
テレビやDVDを見る	2位 57.1	↘	家族と話を	3位 63.4
メールやインターネットをする	4位 54.4	↗	テレビやDVDを見る	4位 62.0
ゲームをする	5位 53.1	↘	メールやインターネットをする	5位 54.9
関心のあること(趣味)をする	6位 38.8	↗	関心のあること(趣味)をする	6位 44.6
本を読んだり音楽を聴いたりする	7位 34.7	↘	ゲームをする	7位 43.2
家の手伝いをする	8位 22.4	↔	家の手伝いをする	8位 28.2

表 3-(7)-2-1 問 21 読書の冊数が「0冊」と「3～5冊」の休日に家でよくすることの比較 (小5)

小5・読書0冊 (%)			小5・読書3～5冊 (%)	
ゲームをする	1位 75.3	↗	勉強をする	1位 73.5
テレビやDVDを見る	2位 65.2	↘	家族と話を	2位 63.7
勉強をする	3位 53.9	↗	テレビやDVDを見る	2位 63.7
家族と話を	4位 52.8	↘	ゲームをする	4位 62.0
家の手伝いをする	5位 32.6	↗	本を読んだり音楽を聴いたりする	5位 38.8
本を読んだり音楽を聴いたりする	6位 29.2	↘	家の手伝いをする	6位 38.4
関心のあること(趣味)をする	7位 27.0	↔	関心のあること(趣味)をする	7位 32.7
メールやインターネットをする	8位 25.8	↔	メールやインターネットをする	8位 18.8

表 3-(7)-2-2 問 21 読書の冊数が「0冊」と「3～5冊」の休日に家でよくすることの比較 (中2)

中2・読書0冊 (%)			中2・読書3～5冊 (%)	
テレビやDVDを見る	1位 59.2	↗	勉強をする	1位 71.8
メールやインターネットをする	2位 57.1	↘	テレビやDVDを見る	2位 62.0
勉強をする	3位 56.5	↗	家族と話を	3位 61.0
ゲームをする	4位 55.8	↘	本を読んだり音楽を聴いたりする	4位 59.2
家族と話を	5位 54.4	↗	メールやインターネットをする	5位 52.6
関心のあること(趣味)をする	6位 38.8	↘	関心のあること(趣味)をする	6位 48.8
本を読んだり音楽を聴いたりする	7位 35.4	↗	ゲームをする	7位 47.9
家の手伝いをする	8位 21.8	↔	家の手伝いをする	8位 30.5

(8) 祖父母との同居と放課後や休日等の過ごし方の関係の特徴（「分析結果 8」参照）

分析結果 8 は、三世帯同居の世帯の子どもたちの放課後や休日等の過ごし方を把握するため、問 2「家族構成」と主な問のクロス集計を行ったが、三世帯の世帯での目立った特徴は認められなかった。その理由としては、分析 8－1－1 及び分析 8－1－2 のとおり、三世帯の世帯の割合が、回答者の約 22%に限られるとともに、全県に分散していることによるものと考えられる。

なお、祖父母との同居の回答状況は次のとおりである。（分析結果 8 (1) 祖父母の同居の状況参照）

項目	小 5 ・ 回答率	中 2 ・ 回答率	全体 ・ 回答率
祖父母の同居あり	197 人 ・ 22.1%	186 人 ・ 22.0%	383 人 ・ 22.0%
〃 同居なし	693 人 ・ 77.9%	661 人 ・ 78.0%	1,354 人 ・ 78.0%

4 調査結果のまとめ

今回の調査結果から、多くの子どもたちが、放課後、休日ともに多忙とも思える毎日を過ごしている状況や、その中でも、早寝早起き朝ごはんといった基本的な生活習慣を身に付けたり、学年が上がるとともに能動的な過ごし方の時間を増やしたりするなど成長の様子がうかがえた。

読書については、冊数が多くなるほど就寝時刻はかえって早くなり、ゲームをする時間が短くなっているなど、効率的な時間の使い方ができている。

また、通学方法により習い事や学習塾に通いにくいといった状況にある子どもたちでも、家での勉強時間を増やしたり、年齢の異なる友達や地域の人の人間関係をつくったりすることで過ごし方を充実させているなど、状況や環境に応じて対応していることも認められた。

なお、今回の調査では、県内の小 5 と中 2、あわせて 1,737 人の子どもたちの協力を得て、実施することができたとともに、集計結果から、小 5 と中 2 の間で違いも見られた。集計や分析については、学年別にも行うとともに、集計表やグラフについても、内訳を添付した。子どもたちの健全育成の一助となれば幸いである。

まとめとして、今回の調査で認められた放課後や休日の過ごし方の特徴等から、今後の施策の方向性として次の 3 点を提案したい。

(1) 放課後や休日を対象とした支援の必要性

少子化の進展に伴い、次代を担う子どもたち一人一人が、地域や県にとってもますます大切な存在になってきている中で、通学時の安全の確保や放課後の安全・安心な居場所づくりをはじめ、小集落の地域やスクールバス利用者等の学習環境が相対的に不利な状況の解消など、子どもたちの健全育成に向け、放課後や休日を対象とした支援が今後とも必要となるものと考ええる。

現在、県では地域の人の協力を得ながら、市町等と連携し、「放課後児童クラブ」や「学校・家庭・地域連携推進事業」による「放課後子ども教室」、「えひめ未来塾」、「土曜教育支援」といった事業を通じて、環境整備を行っているところである。こうした地域との協力による取組みは、今後も必要性、重要性ともに増すものと考ええる。

行政による取組みに加えて、公民館を活用した子どもの居場所づくりや健全育成の充実、PTA や愛護班、ボーイスカウト、見守り隊等の実施主体による地域の実情に合った効果的な取組み等の広がりにも期待したい。

(2) 「早寝早起き朝ごはん」や読書、手伝い等の習慣化の必要性

今回の調査項目に加えた「早寝早起き朝ごはん」、「読書」及び「家の手伝い」については、自己肯定感や就寝時刻、家での勉強時間との相関関係が認められるなど、それぞ

れ子どもたちの放課後や休日等の過ごし方にも関係の深い事項であることがうかがえた。

これらは文部科学省のホームページにも掲載されているとおり、「早寝早起き朝ごはん運動」、「子どもの読書活動の推進」、「家庭で子どもたちに手伝いをさせよう運動」といった形でも取り組まれているものであり、それぞれ習慣化できれば子どもたちにとって今後の大きな社会変化にも対応できる基礎力の一つとなるものである。

このため、これらは、学校や家庭が中心となって取り組まれているものではあるが、上記（１）の放課後や休日等の支援を行う際には、あいさつの励行及び図書館（室）の利活用の促進等と併せて、こうした事項の習慣化の支援も取り入れながら、学校、家庭、地域が一体となって子どもとたちの育成を行っていくことが必要と考える。

（３） 子どもたち、特に中学生への活躍の場の提供の必要性

今回の調査結果から、特に提言すべきと考えられるのは、地域活動の主催者（愛護班、自治会等各種団体や公民館等）には、地域の中学生に対しても、是非参加の呼びかけや役割づくりを積極的に行っていただきたいことである。従来、中学生は、放課後、休日ともに、部活動や勉強で忙しく時間的にも参加は難しいと思われてきたが、今回の調査から、学習塾を除き、部活動や習い事と地域の活動への参加とは競合関係にはないことが認められた。これは、部活動に入っている中２についても、地域の活動に「よく参加している」との回答がかなりあったためである。

また、「まわりの人の役に立ちたい」との思いを持っている中２の割合もかなり高いことから、中学生の主体的な参加が期待できる。

例えば、小学生のみを対象としてきた行事に、中学生を補助員やジュニアリーダー等として参加させることなどである。

小中学生対象の「御五神島・無人島体験事業」では、中学生には主に班長役等を任せしており、地域においては、祭りや伝統行事等で中学生の活躍の場が確保されている。

また、県教育委員会においては、今年度から地域の企業等と連携し、中学生が５日間の職場体験学習を行う機会として「えひめジョブチャレンジＵー１５事業」を実施しており、地域の子どもは地域で育てる気運の醸成を図っているところである。

今後、子どもたちを学校、家庭、地域が一体となって、中学生や高校生、大学生も含めて、時間をかけて、声掛けしながら見守り育てることで、仮に一旦ふるさとを離れることがあっても、鮭が生まれた川に帰ってくるように、将来戻ってくれることも期待したい。